

## 評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成20年2月19日

事業所番号	2775001809	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センタ
法人名	株式会社 多宝	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
事業所名	グループホーム 多宝	評価調査日	平成 20 年 2 月 15 日
所在地	東大阪市下六万寺町3-1-44 電話 072-982-6521	評価確定日	平成 20 年 2 月 20 日

【情報提供票より】 (平成20年1月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成12年7月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数 9人
職員数	10 常勤 3人 非常勤 7人 常勤換算 7.47人

## (2) 建物概要

建物の構造	軽量鉄骨 造り 2階建ての1階部分
-------	----------------------

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000円	その他の経費 (月額 20,000円)
敷金	無	
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 (30万円) 期間3ヶ月まで50%返金	償却の有無 有
食材料費	朝食 400円	昼食 500円
	夕食 600円	おやつ 円
	または1ヶ月当たり	45,000円

## (4) 利用者の概要 (12月22日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢 平均	84才	最低	72才	最高	94才
(5) 協力医療機関名					
医療法人緑癒会福田クリニック・医療法人薫歯会山根歯科					

## 【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

職員は、利用者に丁寧に接し、明るい感じのホームで、居室部分はスッキリとして、落ち着いた感じの雰囲気がある。事業者ご夫妻と練達の管理者が、職員と一緒に、居心地の良さと、愛情を持って介護運営が行われている。共用室は南側の窓より陽光が一杯に差し込み、広く明るいので、殆ど毎日、利用者の殆どはここで、多くの時間を過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	玄関ドアは幹線道路に面しており、交通安全と不法侵入を防ぐため、やむをえず鍵を掛けている。裏口のドアは職員の死角となっており、また、裏通りも車がバイパスとして多く通行するので、改善することが検討事項となっている。職員の研修については、職員の会議を毎月開催し、研修も実施している。地元の方々との連携は、運営推進会議によって進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員は殆ど変わっておらず勤続が安定している。したがって年毎に介護レベルがアップして来ており、今回の自己評価には、事業者と管理者とが、職員との自由な雰囲気の中で話し合い、現状の確認と、改善方策の検討を何回かに分けて実施し、作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4、5、6)
	市役所からの指導により平成19年春から準備にかかって、平成19年7月20日に第1回を開催した。出席者は東大阪市の市議員・下六万寺自治会・会長、副会長、婦人部長、副婦人部長・第三老人クラブ代表・地域包括センター・利用者家族代表・利用者。第2回は12月14日開催。いずれも会議内容は、グループホームの活動の紹介と質疑応答であった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
	ご家族のアンケートは9名全員の回答をいただき、集計しているが、これは日頃のご家族との交流が密接に行われている証であり、ホームでの生活については満足をして頂いている。また、日頃のご家族の来訪時にも意見、提案等があれば、即刻、改善等の処置をとっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	運営推進会議によって地元自治会役員の方々との交流が行われたので、自治会の各種の会合や行事への参加、各種広報活動への検討、また、災害時の対処等についての検討課題等の提案を進めようとしている。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
<b>1 理念と共有</b>					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念・方針は定めているが、現在は「心にかかる、こころの介護」を掲げ、利用者・ご家族と職員に訴えている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム開設時から現在までの日常生活で職員は、笑顔を絶やさず、暖かく見守り、介護に当たっている		
<b>2 地域との支えあい</b>					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	事業者は幼少時より現在地に住んでおり、長年、別の企業を営んで来られたが、近年福祉事業に全力で取り組んでいる。地元との関係は、ご両親時代から深く濃いものがある		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に当たっては、管理者が職員と前回評価以後の反省と、改善の実施状況を話し合って作成された		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は平成19年7月20日と、12月14日の2回開催している。まだ顔合わせの段階だったので、今後の会議に期待されている		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の福祉担当者が、毎月、面談に来訪されており、日常生活の状況などの報告を行っている		
<b>4 理念を実践するための体制</b>					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	定期的に「多宝だより」を発行して、生活の状況や行事等の報告等を行っている。来訪時には詳しく話し合っている		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から相互の信頼関係の構築に配慮しながら、ご家族との対話を行っている。また、意見や不満、苦情等は謙虚に受け止め、すぐに対処している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者を含め常勤職員の移動、退職はなく、非常勤職員の退職も僅かで、利用者との馴染みの関係を保つように、常に配慮している		

## 5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	非常勤の職員も含め会議・研修の計画を立てて、内部研修も実施している	○	職員の勤続が安定しているので、内外の研修には個人毎に計画をして、レベルアップを目指して欲しい
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	大阪府認知症高齢者グループホーム協議会に参加して、研修会・見学会・実習生の受け入れ等、相互に学び合い、介護のレベルアップに努めている		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

## 1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族とは、必ず見学と一緒に話し合ってもらっている。利用が決まれば、今、生活をしている処へ向うき、話し合っ入居していただく準備をしている		
--	-------	---	---	--	--

## 2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には利用者の人生の先輩として尊敬し、学ぶ姿勢を忘れないよう、また、ホームでは一緒に生活を送る家族としての関係とするように指示している		
--	-------	---	--	--	--

## III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

## 1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員には利用者との対話を重視し、希望や過去の記憶など気付きを看取りと改善の記録として把握させている		
--	-------	---	---	--	--

## 2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者のもとに職員との話し合いでの情報、医師との情報や利用者、家族の希望等を汲んで計画作成を行っている。		
--	-------	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員の聞き取り、見守りの記録を基に、毎月のモニタリングを加えて、内部の協議と医師、家族とも相談し介護計画の変更を行っている		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の福祉関連の他事業の機能を活かした支援も含めて、便宜を図っている		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	主治医に24時間体制で、利用者や家族の医療を支えてもらっている		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約の際には、年齢から考えても分かることなので、原則的な話し合いをご家族と実施している。協力医療機関とも話し合って全員で出来る限りの支援を行うこととしている	○	重度化や終末期の迎え方について、参考資料とともに、職員と検討を行って欲しい
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1 その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月、定例の職員会議で言葉遣いの注意を、繰り返し実施している。個人情報の守秘義務についても同様に実施している。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとり、その日の体調に応じて適宜に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストにも応じて適宜、食材も含めて変更したり、屋外での行事の際には、食事の片付けもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		

## (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		

## (4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	表、裏玄関の鍵掛けなしは困難な状況ですが、職員の皆さんとも、検討課題としていてください
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	職員だけで模擬訓練を繰り返し、共通認識と問題点の検討をしておいてください。又、消防署と地元の方々との交流で、ホームの問題点を共通認識としておいてください。

## (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
--	----	----	---	--	--

## 2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

## (1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		